

マゴソ通信



マゴソスクールを心に留め、支えて下さっている皆さまに心から感謝します。

特に春のファミリーツアー、ポレポレキャラバン等では全国各地の皆さまに多くの「恵み」を、とりわけダン先生には豊かな「恵み」を頂きました。その「恵み」は確実にマゴソスクールに届き、実を結んでいくこと約束します。

ここで個人的なことを書くのは好ましく無いですが、少しご容赦ください。ファミリーツアー来日直前に「ルワンダの教育を考える会」の現地学校で音楽教師をされ、マゴソスクールの支援もしてくださっている齋藤照子さんが私の住む山口県に来て下さいました。「虹の鳥と子どもたち」という絵本をルワンダ語、英語、日本語で出版するプロジェクトです。機会があれば是非手に取って読んで下さい。その余韻にひたる間もなく、ダン校長・オギラ教頭の来日、しかも前号で触れた様にオギラ先生は下腿に骨折を抱えたまま。来日してみるととてもツアー続行できる状態でないことが判明し、離脱、私の勤める病院で入院・手術・リハビリを行いました。退院後はダン先生も講演させていただいた北九州市 のもやい聖友会の老人ホームで約一月「研修」としてお世話になりました。感謝です。老人たちの中で生活し触れ合う中で、お年寄りと地域にとけ込み、さらには子どもたちとも交流を重ねたオギラ先生も沢山の「恵み」を携えて元気にマゴソスクールに帰られました。個人的に最後は福島市でのルワンダの教育を考える会の「ルワンダフルサマー」にキャラバンの面々に合流して参加させて頂きました。実は先日、ダン先生・オギラ先生はルワンダの学校を訪問、千晶さんたちも遅れて訪問されています。このつながりを大切に、それぞれの子どものため協働していきたいと願います。

心配されたケニア大統領選挙後の混乱は 2008 年に比べると規模が小さく、幸いにもマゴソスクール関連の大きな被害は無い様です。しかし、ケニアの物価高騰で給食費のみならず人件費の面でも厳しさを増し、他にも内在する課題は山積しております。引き続き皆さまからの「恵み」をマゴソの子どもたちに注いでください。そして秋のツアーに向けてその輪を広げて下さいます様お願い申し上げます。

マゴソスクールを支える会会長 大城研司

支える会からのお知らせとお願い

- ✪ 2017年8月現在のサポーター数 243名
- ✪ 会報は会員の方、アンケートに答えてくださった方、名刺を頂戴した方、寄付を頂いた方、様々な形でご支援して下さる方、皆様に送らせていただいております。
- ✪ マゴソスクールを支える会は、現在22名の運営委員が運営費を拠出し、それを使ってパンフレット、会報の作成、郵送、会員バッジの作成等をおこなっており、皆様から頂戴した会費や寄付金は全額マゴソスクールのために使わせていただいております。
- ✪ 会報の郵送のために、未使用切手やはがきを会の事務局に送って頂くなど、ご協力いただければありがたいと思います。
- ✪ ご友人等にご紹介のためパンフレット・会報等をご入用の場合は事務局までご連絡ください。

オギラ医療費ハランバー お願い

全国各地で、オギラ先生のためにハランバー頂き、本当にありがとうございます。8月10日現在、666,033円が集まりました。

今回の医療費74万円と抜釘のための来日の費用・医療費50万円が必要ですが、まだ不足しております。オギラ先生もケニアでハランバーをするなど頑張っております。よろしく願いいたします!!

【振込口座】

ゆうちょ銀行
店名 四〇八 店番 408 普通預金
口座番号 3717969
オギラ医療費ハランバー
(記号 14010 番号 37179691)

マゴソスクールを支える会

事務局 〒511-0044 三重県桑名市大字萱町54-1

Mail: info@magoso.jp HP: http://magoso.jp/

Facebook: https://www.facebook.com/magososupportersclub/

ダン校長先生の日本旅行記

日本へ旅立つ

千晶さん、オギラ先生、そして私の三人は、2017年5月9日午後5時、ケニア・ナイロビのジョモケニヤッタ空港から日本に向けて旅立った。国外に行くのも初めて、飛行機に乗るのも、もちろん日本を訪問するのも初めてである。とてもわくわくしていた。6時間のフライトでドーハに到着、4時間の乗り継ぎ時間を経て、10時間のフライトで成田空港に到着した。ここからあらゆることが完全に变化した。気象、言葉、人々……。私は日本語がわからないので、千晶さんのそばにいないではならなかった。千晶さんのおかげで日本に来られたことをとても感謝している。日本についたのは夕方、その日は友人の家に夕食を食べに行った。

カルチャーショック

私は日本に来て本当に幸せだと思いながら眠りについた。できるだけたくさん経験したいと思った。人生で初めて布団で寝た。朝はすぐにやってきた。外は明るかった。私は人のしゃべり声や日常の音が聞こえると思っていたが、どこも静かだった。日本人は起きるのが遅いと思っていたが、それは間違いだった。時計を見ると午前4時半。とても驚き、日本人は朝早くから太陽を見ることができて幸運だなあと独り言を言った。間もなく、誰もが目覚め、1日の活動を始めた。

車に乗った時、赤ちゃんがシートに固定されているのを見た。私は、移動中は赤ちゃんをだっこすべきだと思う。道中、赤ちゃんがひどく泣いていた時、なぜ誰も赤ちゃんをだっこしないのかと心配になった。私は子供が大好きで、今にもシートベルトを外し、赤ん坊をだっこしそうになったが、止められた。日本では、到着するまでシートに固定するのだと言われた。もし、私が動いている車の中で、赤ちゃんをだっこしているのも見られたら、私は逮捕されていただろう。赤ちゃんが泣いているのをただ見ているしかなかった。

日本の規律正しさをあちこちで見かけた。ケニアと違って道路にはパンプ（へこみ）がなかった。ガソリンスタンドでは、自分で給油していた。ケニアではそんなことはない。マーケット（市場）はきれいに片付いていて、建物の中で商品を売っている。ケニアでは、多くの場合、露天、路上販売である。

その他、日本には軍隊がないと教えてもらった。家に入るときは靴を脱ぎ、外向きに靴をそろえろと習った。

訪れた場所

47都道府県のうち、27を訪問するという幸運に恵まれた。北九州、宮崎、大阪、岡山、奈良、名古屋、

仙台、福岡、大分、福島、各地に住む場所を追われた人たち（国内難民）に出会った。

広島の実験ドームと資料館、長崎の実験資料館を訪問した。原爆が引き起こしたことにショックを受けたが、人々がいかに積極的に生きているかを知り、良かったと思った。

岐阜の山間部に行き、森や小川を散策した。夕日に輝く富士山を見たことは忘れられない思い出である。

出会った人々

様々な人々に出会えてうれしかった。幼稚園、小学校、大学などを訪問した。障害のある方たちの施設や学校、老人ホームも。老人ホームであった人たちは、彼らの人生における素晴らしい宝物を持っており、それらは若い人たちが尊敬すべきものであると感じた。

市長やいろいろなリーダーにも会った。大阪では路上生活の人に出会ったが、路上生活者の話は、世界中の人々が生きるために家族を必要としていることを教えてくれた。

食べたもの

私は、肉、お茶、魚、納豆、心太（ところてん）、おにぎり、味噌汁、伝統的なおかゆ、ラーメン、すしなど、いろいろなものを食べた。インドから来たカレーも含め、日本食を楽しんだ。

日本での使命

私の日本での使命は、日本のサポーターを訪問し感謝を伝えることであった。マゴスクールに貢献し続けてくださっている皆様や友人たちに感謝し続ける必要がある。私たちは、強い絆と関係を作る必要がある。それは、友達は宝物だからである。

日本の学生に私の経験を分かち合える機会を持つことができた。私は講演と音楽で彼らを励ました。音楽は素晴らしい。癒しの主体であり、励ましの源である。私の話を聞いた人は幸せな気持ちになり、やる気が起きたようだ。日本人が愛する何か良いもの——老若男女の心をいやすこと——を私は持っているのだとわかり、とても嬉しかった。

日本の皆さんへのメッセージ

私は、日本の皆様が自然を愛し大切にしていることがとても素晴らしいと思っています。

ゲームやスポーツなどのいろいろな社会活動に、子供も参加させていることは重要です。両親と先生が、子供に耳を傾け、ライフスキル（人生の術）を教える時間を子供と一緒に作り出すことはとても大切です。ライフスキルは、子供が生きていく上で日々チャレンジしていくのに必要な能力です。ライフス

キルには次のようなものが含まれます。問題解決、戦略、仲間作り、クリティカルシンキング（戦略的思考）、創造的思考、そして最も重要なのは適切な判断。これらのライフスキルは若者の自殺を減らします。

神様を知ること人も人として必要です。神様の助けなしに人は存在できません。人生にはよい力も悪い力も働きます。悪い力を打ち負かし、良い人生を送れるよう助けてくれるのは、唯一神様です。死んだ後も人生はあります。心の中にイエス様を持っている人も持たない人にも人生はあります。イエス様は神様の子どもです。彼は、私に喜びを与えてくださり、私の両親が亡くなった後も私の心をいやし続けてくれています。これが、私がいつも笑っていられる理由です。



私の旅を成功に導いてくださったすべての皆さん、本当にありがとうございました。

マゴソスクール校長 ダニエル オチエン

スタディツアーに行きませんか？

2018年のスタディツアーのご案内を同封しています（1月4日出発のプランもあります。たびせん・つなぐのHPをご覧ください。）。ケニアスタディツアーに加え、今回、ルワンダとのつながりから、『ケニア・ルワンダ二か国で学ぶスタディツアー』が誕生しました。

2017年7月のツアーに参加した大学1年生、みずのゆきさんの感想文

私は高校生の頃から、大学生になったら千晶さんのスタディツアーに参加しようと考えていたが、参加を決める際、かなり迷って、悩んだ。治安のこと飛行機のこと、不安に思うことがたくさんあったから。しかし、今や迷っていたことなんて、すっかり忘れてしまった！なんて素晴らしい旅行だったんだろう！

ケニアに到着した翌日にキベラスラムとマゴソスクールへ訪問。スラムはぎっしりとトタンの家や店が並び、大人から子どもまで様々な人がいた。明るく、活気にあふれ、そこにいる彼らが日常を過ごしていることが伝わってくる。スラムとは、もっと、流れる空気が違って、人々もよそ者の私達に冷く、衝撃的な光景が広がっているのかと思っていた私には拍子抜けだった。声をかけてくれたり、タッチを求めてくる子ども達までいたのだ。素敵な場所だと思った。だからこそここの人達が、あっけなく亡くなってしまうという事実が恐ろしい。

狭い路地を千晶さんの案内で進むとマゴソスクールに到着した。マゴソスクール、マゴソに通う子ども達、OBOGの子達の話聞いた。『世界のどこかで誰かが』と話を聞くことと、実際に「目の前の彼はこのような経験をして」と話をしてもらうことでは実感や受け止め方が全然違う。彼らの姿に、とても励まされた。

校内を周ったあと、マゴソの子ども達が歓迎の歌やダンスを披露してくれた。「アフリカ」をなままで聞け感動し、元気に歌を歌う姿に力をもらった。最後はみんなでダンス！照れくさそうに男の子が私の手を引いて、踊りの輪に誘ってくれた。じんわり心が温かくなった。みんなの輪に入って、夢中で彼らと踊った。その後、私達が出し物をしたり、美味しいごはんを振舞ってもらったり、針金細工の職人さんやリリアンさんのお店を訪ねたりした。本当に帰るのが名残惜しかった。

マサイの村でのキャンプは快適な4日間だった。スマホを使わなくていい！朝も夜も空気が気持ちいい！トイレも自然の中！美味しいごはん！こんな生活を週に一度はしたいな。それだけでなく、マサイの文化や伝統、暮らしの知恵など身をもって、たくさん知ることができた。

ウォーキングサファリやゲームドライブでは、本当にたくさんの動物を見ることができた。シマウマやキリンが当たり前前に思ってしまうくらい。動物達の余裕のあるたたくまいや生活をしている様子、広がる草原、空、何もかもが気持ちよくて、心が洗われた。

マサイでは、いつも焚き火を焚いており、毎晩焚き火を囲んだ。千晶さんに様々な質問をし、日本やケニアの教育について話をし…。私にとって、親でも先生でもない、大人の方々が真剣に議論している姿は新鮮で、とても勉強になった。また、私が何かを言ったら、みんな真摯に耳を傾けてくれる。そして、私の話に対して、人生の経験から色々なことを話してくれた。心に染み入ることばかりだった。素晴らしい出会いに恵まれたと思う。

今、何につけても、このツアーのことを思い出して元気をもらっている。このツアーに参加して、何一つ後悔はなかった。色々なことを経験することの大切さ、様々な人々のことを知る楽しさ……数え切れないことを学んだ。私自身も気づいていないこともきっと、私の身に沁みこんでいるのだと思う。私にとって、人生の変わり目となる経験になった。今は、そう思っている。



2017年秋・マサイのジャクソン来日ツアー

ケニア共和国、マサイマラ国立保護区の北西部に位置するエナイボルクルム村から、ジャクソンさんが来日し、第二夫人の永松真紀さん、早川千晶さん、大西匡哉さんが、全国を回ります。大自然の中で生きるマサイの伝統文化、野生動物と共存する生活の様子、動物や自然に対する知恵と、その継承方法そして、彼らの大地にいま起きていること。ジャクソンさんは、10年前からこの地域はじめての小学校建設を開始。マサイがその伝統文化や自然環境を守りつつ、社会変化の波に対応しながら生き抜いていくための新たな挑戦について語ります。豊富な映像と共に、サバンナからの生の声を伝え、アフリカの大地の躍動感を伝える演奏をどうぞお楽しみください。

お近くでイベントがあればぜひご参加ください！！新しいマゴソグッズもたくさんご用意しています。

9月☆日現在の予定表です。最新の予定や詳細は会のホームページでご確認ください。

<http://magoso.jp/event/2017masai>

9月

15日(金)	北海道沙流郡平取町	16日(土)	札幌市	17日(日)	北海道富良野市
20日(水)	北海道帯広市	21日(木)	北海道釧路市	22日(金)	北海道釧路市
24日(日)	北海道野付郡別海町	25日(月)	北海道北斜里郡 小清水町	27日(水)	北海道枝幸郡 枝幸町
28日(木)	北海道稚内市	29日(金)	北海道稚内市	30日(土)	北海道上川郡東川町

10月 ★ 早川なし ☆ 早川のみ

1日(日)	北海道札幌市	2日(月)	阪九フェリー	3日(火)	福岡県北九州市
4日(水)	山口県 ★	5日(木)	山口県宇部市 ★	6日(金)	大分県中津市
7日(土)	福岡県北九州市	8日(日)	福岡県北九州市	9日(月)	福岡県大野城市
10日(火)	大分県日田市	12日(木)	広島市	13日(金)	愛媛県西条市
14日(土)	香川県三豊市	15日(日)	徳島市	16日(月)	徳島県神山町
18日(水)	大阪市	19日(木)	福井県鯖江市?	20日(金)	富山県魚津市
21日(土)	岐阜県高山市	22日(日)	岐阜県高山市	23日(月)	岐阜県高山市
24日(火)	岐阜市?	25日(水)	名古屋市?	26日(木)	大阪府?和歌山市?
27日(金)	大阪府	28日(土)	大阪市	29日(日)	大阪摂津市
30日(月)	千葉県松戸市 ☆	31日(火)	東京都墨田区 ☆		

11月

1日(水)	山梨県甲府市	2日(木)	東京都	3日(木)	東京都
4日(土)	東京都八王子市 高尾町	5日(日)	東京都		

早川千晶講演ツアー

11月

6日(月)	愛知県豊橋市	11日(土)	兵庫県三木市	12日(日)	大阪府堺市
-------	--------	--------	--------	--------	-------

★ジャクソン・オレナレイヨ・セイヨ(Jackson Ole Naleyio Seyio)

マサイ族青年リーダー。ケニア共和国リフトバレー州トランスマラ県エナイボルクルム村在住。シリア・マサイのカプティエイ支族に属する。戦士時代に7頭のライオンと1頭の象を仕留めたという勇敢なマサイ男性。現在も、牧畜を基盤とするマサイ伝統生活を送っている。

2003年、マサイ戦士時代卒業にあたる伝統儀式「エウノト」を終え、現在、長老の準備期間を過ごしながらか、変化の激しい現代ケニアで時代の流れに翻弄されることなく、より良い未来を築いていくためのコミュニティ若手リーダーとして尽力している。

★永松真紀(ながまつまき)

福岡県北九州市生まれ。ケニア在住。

アフリカ各国でガイド、撮影コーディネーターを手掛けながらも、年間3分の1は日本のリピーターからの指名を受け、世界各地のツアーに同行するカリスマ添乗員。

2005年4月、伝統的生活を送るマサイの第二夫人となり、夫と共にコミュニティサポート、マサイを良く知るためのマサイエコツアーや日本での講演会などに力を入れている。著書に「私の夫はマサイ戦士」(新潮社)がある。<http://www.masailand.com/>

